

# 若者に関する雇用情勢について

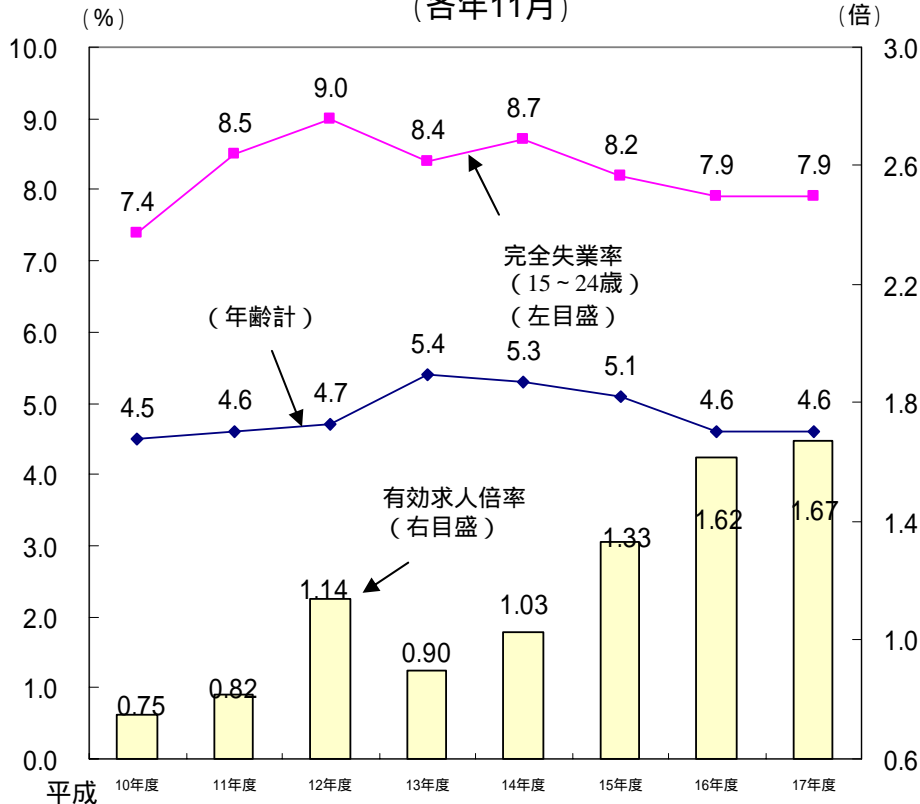
厚生労働省

# 改善が進む若者の雇用情勢

若者(15~24歳)の完全失業率は、平成17年で7.9%と平成10年以来の7%台まで低下したが、依然として年齢計より高い水準。

有効求人倍率は1.67倍と平成3年以来14年ぶりの水準まで上昇。

完全失業率・有効求人倍率(15~24歳)の推移  
(各年11月)

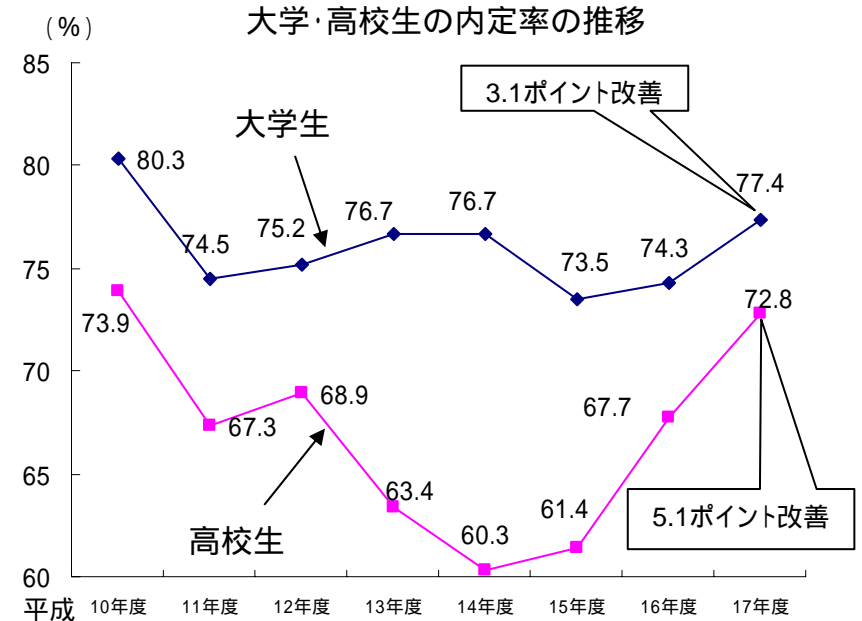


(資料出所) 総務省統計局「労働力調査」

厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 15~24歳は原数値、年齢計は季節調整値。

高校生、大学生の内定率は、大きく改善。



(資料出所)

大学等卒業予定者就職内定状況等調査  
(厚生労働省・文部科学省共同によるサンプル調査)  
厚生労働省「職業安定業務統計」

(注) 大学生については、各年12月1日現在  
高校生については、各年11月末現在

北海道、東北、九州の雇用情勢は若年についても依然として厳しい。

	完全失業率	高卒内定率
北海道	9.7%	47.5%
東北	10.0%	64.3%
九州	11.8%	64.6%

(参考)

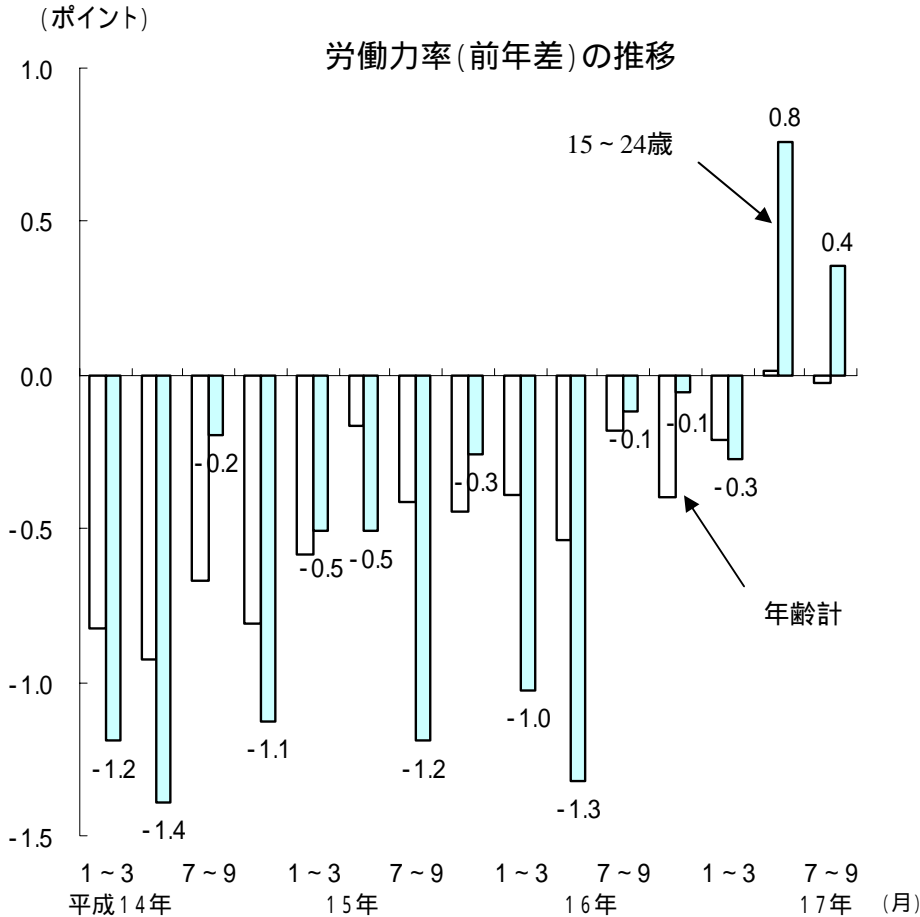
北関東・甲信	5.9%	76.9%
東海	6.3%	87.8%

(注) 完全失業率は17年7~9月

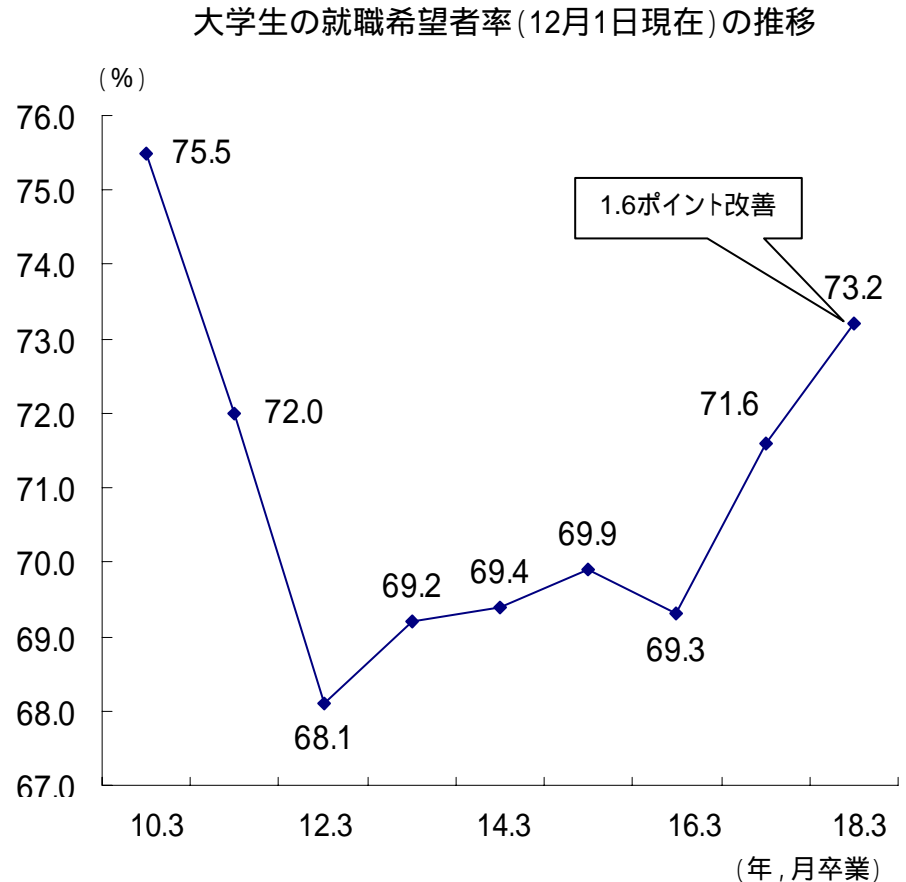
# 上向きつつある若者の働く意欲

15～24歳の労働力率は、これまで年齢計を上回る低下を示していた。しかし、17年4～6月以降、年齢計は横ばいに推移している一方で、15～24歳は上昇に転じた。

就職希望者比率は、73.2%と7年前の水準まで回復。



(資料出所)総務省統計局「労働力調査」

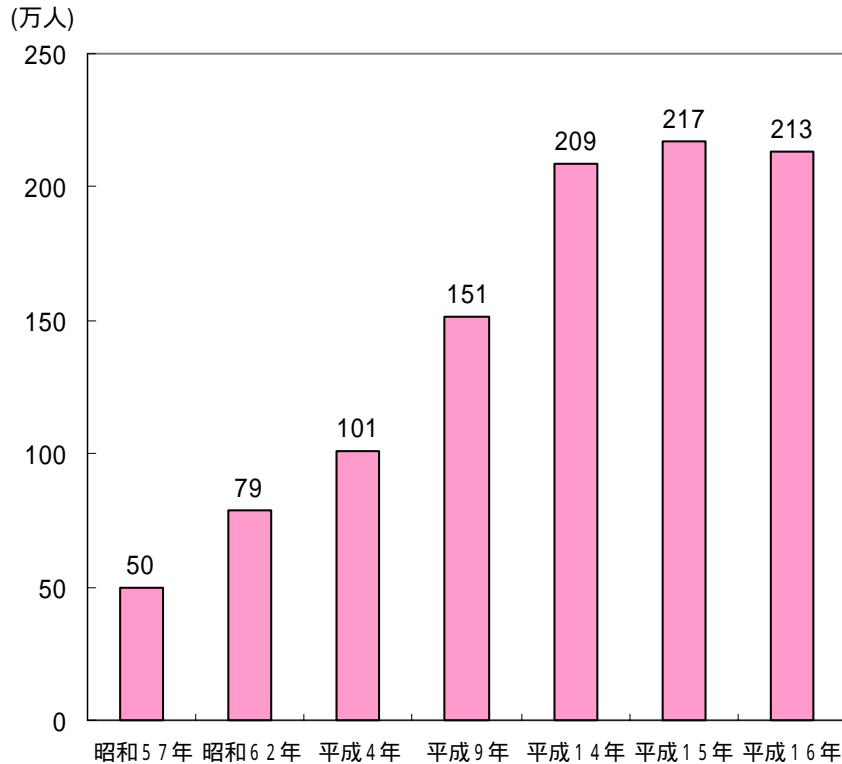


(資料出所)大学等卒業予定者就職内定状況等調査(厚生労働省・文部科学省共同によるサンプル調査)

# フリーター・ニートの状況

フリーターは、213万人と10年間で100万人増加したが、2004年に213万人と初めて減少に転じた。

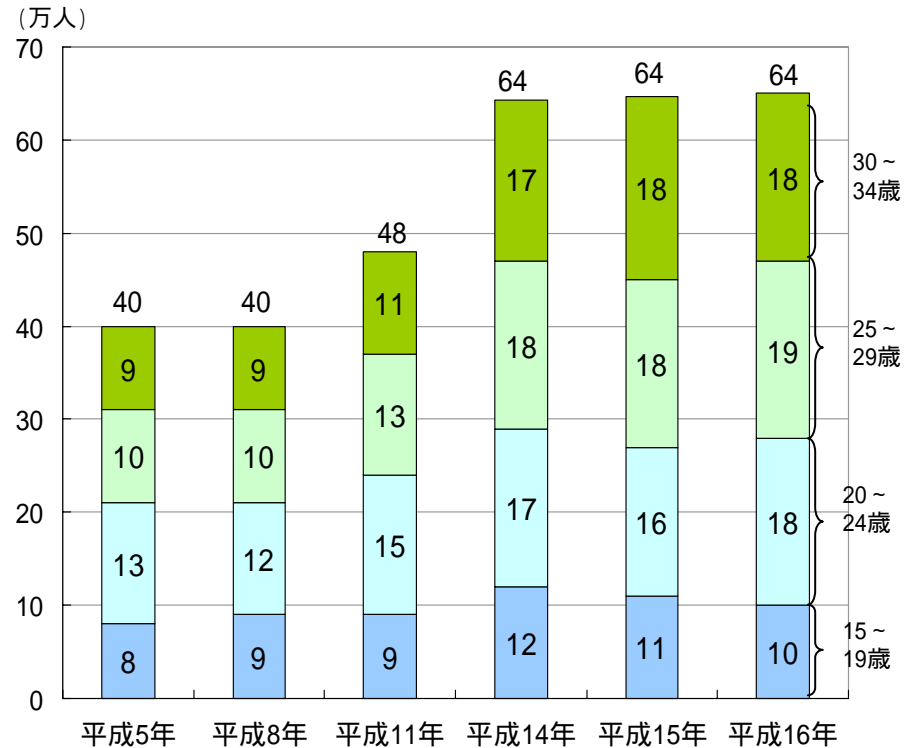
フリーターの人数の推移



(資料出所) 総務省統計局「就業構造基本調査」(昭和57年～平成9年)、「労働力調査(詳細結果)」(平成14年～平成16年)を厚生労働省労働政策担当参事官室にて特別集計

ニートは、10年前の40万人から64万人に増加。特に年齢の高い層(25～34歳)の増加が大。

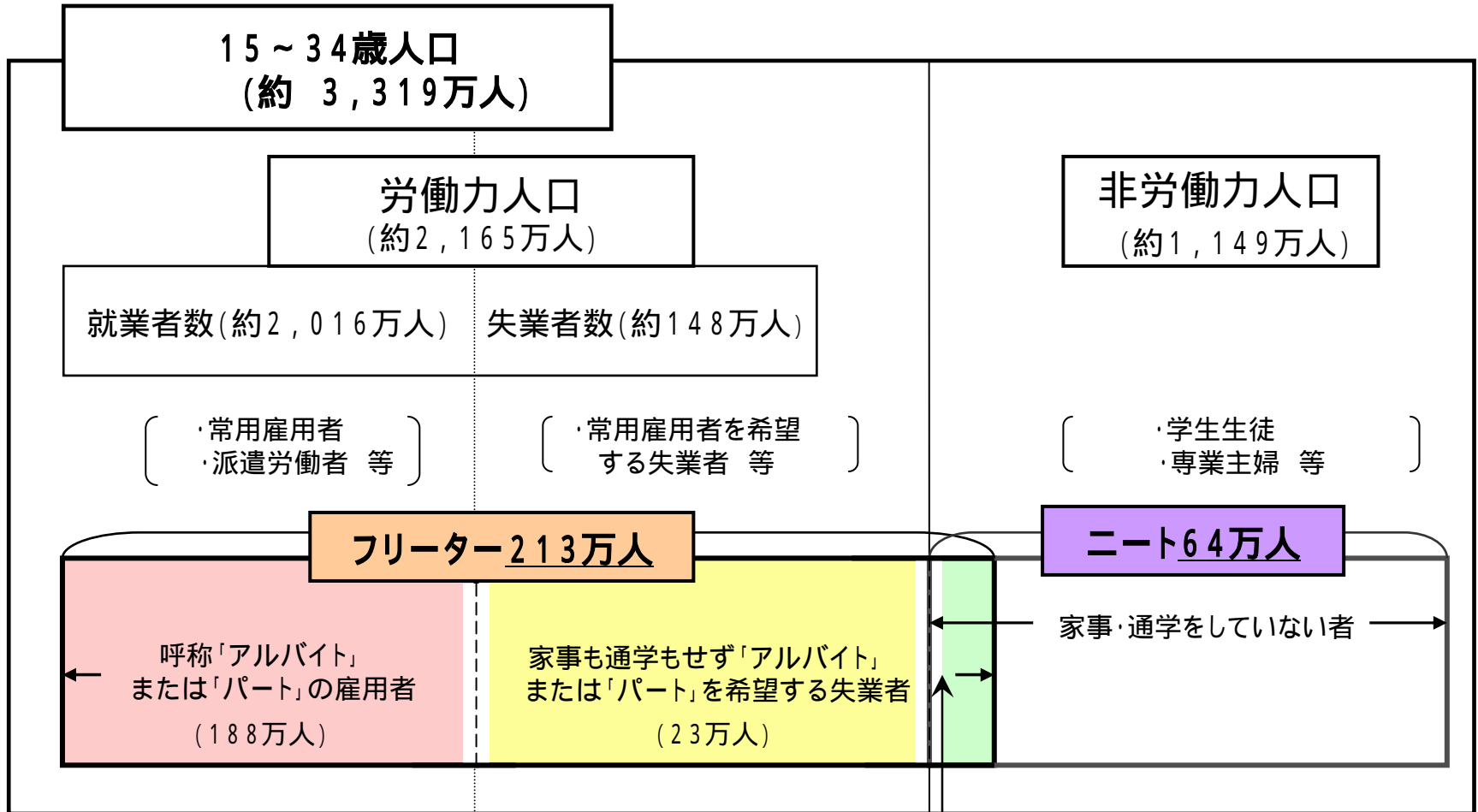
ニートの人数の推移



(資料出所) 総務省統計局「労働力調査」

(参考)

## フリーターとニートの概念・数の関係



(資料出所) 総務省「労働力調査」(平成16年平均)等

\* アルバイトまたはパートを希望する無業者で求職活動に至っていない者 (3万人)